

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第26号 2021. 9.19 発行

4号棟建設作業の再開です

例年の夏休み期間も終わり、山梨県にも出されていたまん延防止措置も解除されたため、晴れて9月17日から作業を再開しました。前回の梅之木通信第25号の発行が6月でしたから3か月以上が経ってしまいましたが、決して夏休みやコロナのせいばかりではありません。この間いろいろな所で佐野さんチェックの手直しが発生し、なかなか進捗がわかり難い状態が続いていたため通信の発行が滞ってしまいました。なんとか年内には4号棟を完成させて、年末にはまた皆さんと完成の祝い&忘年会が開催できるよう、建設作業に拍車をかけていきたいと思っています。それまでにコロナの感染状況も落ち着きを取り戻し、イベント制限も緩和されていることを願いながら……。

今まで通り毎週金曜日と土曜日を作業予定日としていますが、とりわけ土曜日の参加人数が少ないようです。これからは台風や秋の長雨の季節でもあり作業が予定通りに進まない事も予想されます。

『土曜日にもより多く人に参加いただければ……』というのが世話人一同の思いです。

❖ 3号棟内にパネルを設置しました

昨年完成させた縄文住居3号棟の建設過程が分かるよう住居内にパネルを作成して展示しました。

石斧の石材拾いから始まり、石斧での樹木伐採、苦労したフジヅル採取……が時系列で分かるようになっていきます。

また、節目ごとのお祝いイベントの様子なども織り交ぜて写真と共に掲示していますので、まだご覧になっていない



方は、ぜひご家族と一緒に見に行ってみてください。



❖ 今だけみられる姿です！

木舞の結び直しも完了し、窓枠の屋根も3方向にできあがり、思わず『このままの姿にしておきたい』と思うほど、美しい枠組みの状態になっています。これに杉板を結びつけたり、土を被せたりしないでそのままにしておけないものかと思いますが、この姿のままなのはもうしばらくの間だけです。

ぜひ、この綺麗な枠組みだけの姿を目に焼き付けておいていただきたいと思います。

❁ 内装もだんだん手が込んできました

4号棟は宿泊施設として利用されることも想定して今までとは少し異なり、見た目も重視したつくりになっています。

3号棟では、壁部分は杭を地中に刺してその間に小枝を埋め込んだだけでしたが、今回は壁の土が崩れないように斜めに角度をつけ、下に防水シートを敷いた上に杉皮を編み込んだ仕様になっています。盛り土部分は何度も崩れて編み込みも試行錯誤の繰り返しでしたが、さすが熊さんの造園業の技が生かされていて、とても我々にはまねできない壁に仕上がりました。



❁ メディアからの取材が増えてきました

コロナで各所のイベントが中止となり、ネタに乏しくなってきた訳ではないでしょうが、マスコミからの取材が増えてきています。8月6日は八ヶ岳デイズからの取材。石斧での伐採風景も取材していましたが、やはり絵になるのは熊さんが一番のようです。佐野さんからの話がメインだとは思いますが、我らの広報部長もおおいに活躍して説明に奔走していただきました。



テーマは、『2020年以降の移

住ブームで八ヶ岳を生活の地として考え始めた

「移住者・二拠点生活者」にとって、いかに八ヶ岳が「住んで楽しい・遊びに行くと楽しい場所か」を紹介する』ということなので、我々の暮らし方がどのように紹介されるのかが楽しみです。

次号の八ヶ岳デイズの発行は9月29日なのでぜひ書店でご覧ください。



9月17日は北杜市介護支援課の紹介で八ヶ岳ジャーナルの記者が取材に訪れました。ここでも広報部長がぴったりと密着してこと細かく説明していただけたものと思います。北杜市も介護予防の観点からフレイル予防として我々の活動に興味を持っていただいています。いつのこどながら、作業で手を動かすよりも、毎週集まって口を動かす方が主体の集まりです。気持ちの良い屋外で、適度に体を動かし、会話が弾み・・・と介護予防にピッタリな活動なのかもしれません。



コロナ感染を配慮して、ふるさと倶楽部のイベントも多くが中止となったり、同好会での集まりも中断中となっているものが多いかと思いますが、その中でも活動し続けている数少ない同好会です。

梅之木遺跡に居ると、なんだか不思議なパワーを感じるところがあるような気がしませんか？

これからの秋の清々しい季節を楽しみながら、縄文のパワーを吸収してコロナに打ち勝ちましょう！